

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第2回行田市公立学校通学区域等審議会	
開 催 日 時	令和6年1月18日(木) 開会：午後6時30分 閉会：午後8時25分	
開 催 場 所	行田市産業文化会館管理棟2階第2会議室	
出席者(委員) 氏 名	柿沼耕一会長、島田清子副会長、安藤秀一委員、多田昌樹委員、 櫻井真佐美委員、袴田彩委員、木村靖宏委員、羽賀烈委員、 小林永典委員、飯塚千十世委員、柿沼清委員、寺崎比呂志委員	
欠席者(委員) 氏 名		
事 務 局	小池学校教育部長、石崎学校教育部次長兼教育指導課長、 岡部教育総務課長、新井教育総務課主幹、 嶋田教育総務課主査、萩原教育総務課主査	
会 議 内 容	議事 行田市義務教育学校設置に向けた再編計画全体について 新しい学校の将来像について	
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1 行田市義務教育学校設置に向けた再編計画<骨子編>(素案) ・ 資料2 別添資料 第4章新しい学校の将来像(たたき台) パターン別児童生徒数の推計 	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者 2名	
会議録 の確定	確定年月日	主宰者氏名
	令和6年1月25日	柿沼 耕一

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 柿沼会長	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事の進行は、条例第6条の規定に基づき、柿沼会長にお願いする。 ・議事が円滑に進むよう皆様の協力をお願いする。 ・本日の議事は、行田市義務教育学校設置に向けた再編計画についてとなっており、(1)として「行田市義務教育学校設置に向けた再編計画全体について」としている。前回の会議では、各委員より様々な意見や質問があった。これを踏まえて修正箇所があれば、その箇所を中心に事務局より説明をお願いする。
事 務 局	<p style="text-align: center;">〈資料1に基づき説明〉</p>
柿沼会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から説明があったが、各委員から意見や質問があるか。 ・なお、23ページから27ページは、新しい学校の将来像となっており、(2)の議事で取り上げるので、これ以外の内容について意見や質問をお願いする。
安藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明を聞き、資料1の9ページ並びに19ページに小中一貫教育や義務教育学校についての解説、メリット、デメリットを記載していただいたのは大変分かりやすくなったと思う。 ・この後、この骨子編を住民の皆様等に納得してもらえるようにしていきたいという話があったが、それぞれの地域の保護者や住民の皆様、子どもたちにどのように効果的に周知していくかというところは結構ハードルが高いと思った。この再編計画は、市のホームページにも掲載していただけたと思うが、恐らく見ないの方が圧倒的に多いと思う。そういう方たちにどのようにアプローチしていくのか。実際に学校現場で手伝いをするような形になるかと思うが、現時点で構わないので、保護者や地域住民に対する周知方法について教えていただきたい。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、各学校の学校運営協議会の会議に足を運び、説明をしていくことを考えている。学校運営協議会の委員の皆様は、地域の様々な分野の団体等から選出された方であるので、そういった方にまず理解していただきたいと考えている。併せて、各委員の皆様から地域の皆様に情報を拡散していただくことで、より情報が伝わるのではないかと考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・また、各学校のPTAの皆様が集まる場でも説明をしていきたいと考えている。それと、2月上旬に自治会連合会の会議があるので、各自治連会長に説明する予定である。安藤委員の発言のとおり、再編計画に関する資料は市ホームページに掲載するが、実は前回の審議会の会議録や配布資料は既に掲載しているので、閲覧できる状態になっている。しかし、市ホームページに掲載するだけでは当然、情報は伝わらないので、子育て世代をターゲットとすると、LINEやSNSの活用は情報伝達ツールとして有効であると思う。資料そのものをSNSに載せることは難しいが、まずは導入部分で学校再編に向けて検討を行っているという情報だけでも伝えられるのではないかと考えている。情報伝達ツールは多岐に渡るので、伝える相手に応じて適切な手段を選択し、有効に活用していきたい。
安藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校としても、単に教育委員会で作成した再編計画に受身的に取り組むのではなく、一緒に義務教育学校を作っていくという姿勢で協力できることは協力していくのが本筋である。ぜひ、今後は詳細な事項について色々と協議しながら進めていけるといいなと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・補足させていただくが、前回の審議会で指摘があった「学校再編だより」についても発行しようと考えている。
多田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1ページ目の「はじめに」に、「ともにビジョンを共有しながら」という文章が新たに追加されている点について、委員の皆さんが考えていたことを酌み取って掲載しているのはとても良いことだと思った。 ・私は北河原小閉校時、さらには見沼小開校時の校長であり、見沼中学校区での義務教育学校開校に向けた準備にも関わってきた。その経験を申し上げると、準備に携わった職員の中には義務教育学校についてイメージが持てていなかった者もいたというのが事実である。今回の計画には、具体的に義務教育学校について示しているので、とても意味のあることだと思う。 ・質問だが、30ページの4つ目の丸印のセンテンスで「その間、学校の児童生徒数が著しく減少することにより、教育活動に支障が生じることが見込まれる場合は」と記載されているが、事務局としてどのあたりの学校を想定しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の推計では、下忍小がこの5年のうちに複式学級が発生することが予想されている。具体的な学校名というと、下忍小になる。

<p>多田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田の学校の校長という立場から学校規模について承知はしていたが、予想していたとおりであった。 ・自分自身が閉校、開校に関わってきた立場から申し上げると、義務教育学校を作るためには、必ず閉校というハードルを越えなければならない。そして、開校というプロセスを踏んで、新たな学校としてスタートを切るわけである。何度も言わせてもらうが、学校再編で大切なことは、子ども、保護者、地域の方々の安心感を引き出すことである。安心感さえ担保していただければ、きっと教育委員会の考えに賛同してくれるし、間違いなく成功すると自分の経験から確信している。 ・そして、計画を策定したら周知が必要であることと、決めたからにはブレないこと、計画を途中で安易に変更しないことが大切である。また、具体的なスケジュールは本当に全員が納得した条件を示してもらいたい。 ・先ほど、広報手段について事務局から説明があったが、できれば広報のスケジュールもこの計画に落とし込んでもらいたい。なぜかという、私たちは人事異動もあるし、この審議会の委員も入れ替えがあると思う。そのときに、「初期はこのような形で子どもたち、保護者、地域の皆様に安心感を高めるために広報した」ということを示していただけると、引き継いだ方がこれまでの経緯を理解しやすくなると思う。 ・後は、市長がLINEで直接市の取組みを広報しているが、市長からダイレクトにメッセージをいただくと効果的であると考えている。
<p>櫻井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安藤委員や多田委員が述べられたように、広報活動は大切である。QRコードで読み取るなど、手軽に計画にアプローチできる広報手段であれば、好意的な感触を持つのではないか。 ・義務教育学校の良さやデメリットの部分をしつかりと示しながら、行田ならではの義務教育学校の特色を打ち出し、これだけの良さがあるんだということを示していく必要がある。
<p>袴田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この資料を保護者に見てもらって意見をもらったが、現行の計画では見沼中学校区の義務教育学校を設置するというものであったが、小学1年生と思春期の中学生と一緒に生活することについて保護者が不安になってしまったという理由で反対されたということを知った。その時は、この資料に掲載しているように想定される懸案事項に対する対処方法などを教育委員会では伝えたと思うが、それでも猛反対され白紙となってしまったのだろうと想像した。今後再編を進める上で、前回と同様に対処方法を教育委員会が伝えたとしても同じように反対されてしまう可能性が

<p>木村委員</p>	<p>あり、前回の二の舞になってしまうのではないかと心配している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 20 ページに地域の特色を生かした学校を創ると記載されているが、教員の中でも働き方改革が行われている中で、教員がお祭りや休日のイベントに参加することが負担にならないのかという心配の声もあった。 ・ 先日、PTA 連合会による市長との懇談会に出席した。市長から学校再編は児童生徒数が減ってきていることを理由に統合するというのが一般的であるが、行田市では学校再編をそういう捉え方で考えているのではなく、新しい教育を受けさせるために必要な取組みであるという話があった。その話を聞き、私もすごく納得した。学校再編の取組みは、そういった面を押し出していった方が良いと思う。つまり、人数が少ないから再編するというのはもちろん理解しているが、義務教育学校を設置すれば質の良い教育を受けることができ、部活動の選択肢も広がることにより充実した学校生活を送れるといった面も説明会の中で伝えてほしい。
<p>羽賀委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 率直な意見を言わせていただくと、すごく分かりづらい計画である。ここにいるメンバー内に示す資料であれば特に問題ないが、恐らくこの計画を一般市民に手渡してもすごく分かりづらいので見ないと思う。自己満足で終わってしまう資料である。(2) の議事で使用する資料 2の方が分かりやすいので、もっと簡潔にした方がよい。この資料が計画として、このまま保護者や地域の方に手渡されるわけではないと思うが、これを渡されたところで 2、3 ページめくって読まれないという結果になってしまう。この資料 1 はじっくり読めば分かる内容なので、全体としては良いと思うが、もっと分かりやすい資料にしていきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ より細かいところまで盛り込んだ計画書を作ることは必要であると考えている。一方、ご指摘のとおり、これを見たときに保護者や地域住民の方が分かりづらいという意見はいただくものと想定している。現在はこの計画書自体を審議している関係上、このような資料で示しているが、一般に公開する段階では、要点をまとめた概要版を作成した上で示していきたいと考えているので理解していただきたい。先ほど学校再編だよりを発行するという話もしたが、ワンペーパーのような形で分かりやすくシンプルに示していきたいと考えている。

寺崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の周知について、皆さんから意見が出たのはすごく良かったと思う。私たちが見ている資料は確かに専門的な部分が多く記載されているので、周知を徹底するためには、より簡潔で誰が見ても分かりやすいものを作り、SNSや高齢者のためにも自治会回覧を活用すると良いと思う。
柿沼(清)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり、広報の部分でPRが重要であると思う。 ・計画の「はじめに」のページで、今回新たに「ともにビジョンと共有しながら同じベクトルで歩みを進めていく」という内容が盛り込まれたが、「ビジョン」や「ベクトル」という言葉自体を100人いたら60人ぐらいは受け入れられるが、一般の人が見たときに受け止められないと思うので、誰でも簡単に分かるような内容にした方が、理解が深まると思う。 ・14ページで小中学校の校舎の経過年数を示しているが、耐用年数もあると思う。学校の校舎は、大規模に改修して長寿命化を図るとするのが一般的であると思う。当初は、学校校舎の耐用年数は50年前後としているが、現在は耐用年数が80年、90年になるよう改修を進めている自治体が多いということ調べて分かった。また、その下の図に平均の維持管理費も記載している。そこまで記載しているのであれば、新しい学校をつくるための費用や長寿命化するための費用を記載してもよいのではないか。その意図としては、校舎に係る費用は後々後世の方の負担になり、明確にすることで住民の皆様から色々な案が出やすくなるのではないだろうか。 ・25ページから27ページは、各ブロックにおける小中学校の組み合わせが示されているが、各学校の収容人数や校庭の広さなどを記載してもらいたい。それが一つの目安となって、改修費用について頭の中に入れてもらえるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この骨子編は、今後の再編を進めるに当たってのあくまでも土台となる部分である。そのため、新しい学校を設置するための必要経費や学校の大きさなどについては、この骨子編が確定した後に学校をどのように作っていくかという個別計画の中で示していく方が良いのではないかと考えている。
柿沼(清)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この骨子編を見たときに、市民に誤解を与えないような計画にしてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・誤解を招かないような周知に努めていきたい。

柿沼(清)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報という部分で、各学校のPTAの方が集まる機会に説明することであったが、そのときは教育委員会が主体で行うのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・説明は、教育委員会が主体で行う。
柿沼(清)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画の内容を見ていると、教育委員会の圧力的なものを感じてしまう。本来であれば、みんなで同じ方向に向かって取り組むべきものである。そう考えると、各学校の校長先生を中心として説明を行い、オブザーバーとして教育委員会がフォローする形で会議を進めた方が柔らかい雰囲気の中で内容を受け止めることができると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会として、教育環境をどのような方向でより良くしていきたいかという説明をしなければいけないという視点で考えると、説明責任は教育委員会事務局にある。実際に説明の場に行ったときに、学校ごとの特性や地域性、あるいはPTAの雰囲気などがそれぞれあると思うので、実際にどういった形式で説明した方がいいのかというところは、各学校の校長先生やPTA会長等に相談したいと思う。一方で、学校ごとに伝わり方が違うというものは避けなければいけないので、教育委員会の方で主導権を持ちながらも、説明の手法については個々に対応していきたい。あくまでも今回の計画は、全市的に義務教育学校を設置するための再編計画と位置づけている。今までのように、ここの地域の学校の児童生徒数が減ったのでその再編を進めていくという形ではなく、全市的に再編を進めていくという考えでいるので、先ほどから申し上げた方法で周知していきたいと考えている。
柿沼(清)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その他気になった部分がある。色々な地域の義務教育学校で特に茨城県が先行しているようだが、義務教育学校あるいは小中一貫校に対して様々な専門家等が評価している。その中で、義務教育学校であっても、中学校の入学式や小学校の卒業式を行った方が全体的にプラスになるといったことが結果として報告されていた。そのことを伝えたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画では、将来的には義務教育学校という一種の学校の形を決めて設置を目指していくことを示している。その形が決まった後に、新しい学校をつくる過程で小学校の卒業式や中学校の入学式について議論していく。

柿沼(清)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校を3校設置するとなると、それぞれ別々の教育課程になってしまうとあってしまった。市全体として、基本的な教育課程は同じにしていけないと義務教育学校を設置した意味がなくなってしまうと思う。本来であれば、義務教育学校は4-3-2制といった体系をとるのが普通だと思っている。保護者は、義務教育学校を設置すると学習能力が本当に上がるのかということに興味関心があるのではないだろうか。また、それとは別の視点で、部活動で活躍させたい場合、本来の通学区域ではない学校の部活動が活発であるという理由で区域外の学校に通いたいという思いが募る可能性もあるのではないか。その辺は、今後、臨機応変に考えていくということによろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画に義務教育学校について分かりやすい説明が追加されたことはとても良かったと思う。その上で、具体的にこの計画が実施されるのは、下忍小を再編した後になるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画で今後のスケジュールを示しているとおり、実現に向けて10年スパンで考えていくものである。この計画の実現に向けて取り組んでいく前段の早い段階で、教育活動に支障が出るほど規模が小さくなってしまいうような学校が出てくる場合は、この計画の進行に関わらず、編入ということも考えていかなければならない。そのことについては、30ページの今後の進め方の中で示している。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・下忍小は、パターン1で見ると行田中学校区に属している。下忍小で複式学級が発生するときに新しい学校を作ることになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・一旦下忍小を一番近い学校に編入し、その後、行田中学校がある区域に義務教育学校を設置することも考えられる。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・つまり、中学校が一つになるということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・下忍小において、複式学級が生じるような事態が出たときは、義務教育学校の設立を目指しつつも、まずその課題を解決するために近隣校への編入も考えられるということである。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・別添資料によるとパターン1であれば、下忍小はBブロックである。そうした場合、学校の設置場所はどこになるのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bブロックの学校に限らず、この計画を策定した後、個別の学校ごとの計画を作っていく中で議論して決めていく予定である。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1校に絞るということではないと理解してよいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育学校の施設形態も施設一体型か併設型かについて、個別計画の中で具体的に示していく予定である。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別計画とはどういうものなのか。 ・ Bブロックの中で再編を考えると、学校を設置する位置を考える必要がある。そのときに新設するのか、それとも既存の学校を利用するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのことについては、令和6年度以降の個別計画で決めていくことを考えている。30ページに示しているが、再編後の学校の位置や使用する学校を既存のものにするのか、それとも新設するのかに応じて新校を開設するまでの具体的なスケジュールが決まる。そういった具体的な事項は、個別計画の中で示していきたい。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ その説明だと学校を一つに絞るということではないと理解できるが、いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ブロックの中に、一つの義務教育学校を作っていくということである。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ その場合、特にBブロックは学校を設置できる場所はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別計画の中で既存のものを使うのか、それとも新設のものを建てるのかについては教育委員会で案を示すが、保護者や地域住民の皆様と合意形成を図り、納得の上で新校の設置位置を決めていきたい。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の経過年数が掲載されていたが、下忍小は比較的新しい校舎である。しかし、人数的に複式学級になることが予想されるということで編入を考えるとということであると理解した。既存の校舎を使うとなった場合、将来的にこれだけの人数を収容できなければならないので、かなりの敷地が必要になる。敷地を広げられるところとなると学校の設置位置は絞られてくる。広大な敷地が確保できる場所を考えると、忍地区から学校がなくなるということもありえるのか。

<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・また、私はパターン1が良いと思った。前回の会議でスクールバスのことを話したが、通学に時間がかかるというのは、実際に目の当たりにして大変なことだと思う。バスの時刻に合わせて生活が決まってくる。そのため、通学にかかる時間が少ない方が良いと思っている。 ・現時点で忍中、忍小を既存校舎として使う可能性があるということは約束することはできない。 ・学校の設置位置については、この通学区域だとスクールバスの利用は可能性としては高いが、利用する人数や新設であれば造成ができる場所があるのか、既存の校舎を使うのであれば増築ができるスペースが確保できるのかといったことを総合的に考えた上で決めていく必要がある。そういったことを令和6年度の個別計画で示して、皆さんと一緒に考えていきたいと考えている。 ・学校の位置や新しい学校を新設するのか、あるいは既存の学校施設を使うのかという部分については、来年度以降、個別に計画をしていくということは説明しているとおりである。そのことを来年度以降議論するに当たって、土台となる計画を3月までに皆様に示している資料の形で決めていきたいと考えている。
<p>島田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理解した。
<p>飯塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画で義務教育学校のメリットだけではなく、懸案事項も掲載しているので、より良くなったと感じた。 ・再度計画を見直したのだが、基本方針の中の4番目の「豊かな学びを支える教育環境の整備」ということで、目指す姿として子どもたちが明日また行きたいとか保護者や地域住民が通わせたいと心から期待してもらおうような魅力的な学校へ変容を遂げていると記載されているが、ここの文章だけ見ると建物自体が魅力的だけのように感じてしまう。実際に保護者や地域住民から期待してもらおうためには、建物だけでなく教育内容、教師、学校生活などが良いから通わせたいと思うのが通常であると感じた。 ・学校施設は子どもたちが利用するだけではなく、地域住民の生涯学習の場、地域コミュニケーションの拠点、災害時の避難場所等として役割を果たすことが求められていると思う。そういったこともこの計画の中で触れると良いのではないか。 ・児童生徒、教職員、保護者、地域住民など多様な人々のニーズを考慮するために、ぜひ新しい建物を決定する際はバリアフリー化とかユニバーサルデザインなどの視点は必要不可欠であるので、取り入れてほしい。今後、インクルーシブ教育が重要視されるの

	<p>で、児童生徒をはじめ誰もが利用しやすいような合理的配慮に視点を置いた環境が作られることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長が話していた新しい学校や新しい教育に設備自体だけでなく、誰もが居心地の良い学級づくり等について取り入れてもらえるようにするためにも、この計画で言及してほしいと思った。
<p>小林委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に示している文科省のデータが古く感じるが、これは最新のものなのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校での成果は、データとして文科省で示していない。19ページで示しているデータは、1人の校長が小中一貫校をマネジメントしたときの効果を示しているものであり、平成26年度が最新の結果である。小中一貫教育の成果は、9ページに調査時点が平成29年3月1日時点のものが最新となっている。
<p>小林委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月策定予定の限られた時間の中で難しいとは思いますが、学校の先生や保護者にヒアリングする予定はあるのか。実際に現場の声を聞いてもらい記載することで説得力が増すので、計画に落とし込んでもらいたい。
<p>柿沼会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて議事の3の(2) 新しい学校の将来像について協議する。23ページから27ページで示している新しい学校の将来像で、ブロックごとに中学校区の組み合わせを示している。このページについて事務局から補足等あれば説明をお願いします。
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;">〈資料2 別添資料に基づき説明〉</p>
<p>安藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この資料を見て、どのパターンがいいかと聞かれると、どうしても学校の位置やスクールバスを利用する範囲が見えないと自信をもって決めることができないというのが本心である。ただ、これだけの大きな計画を進めていくためには、事務局が考えているように先にエリアを決めてからでないと話が行ったり来たりしてしまい、特に莫大な予算がかかる学校建設となると、そこで時間をかけてしまったときに実現に向けて遅れが生じてしまうということもあると感じている。非常に難しい選択を我々はしている。学校の位置はともかく、通学方法の検討段階でスクールバスは走らせるというような何か担保となるものがあれば、選びやすくなる。

多田委員

- ・自分の住んでいる地域から学校がなくなってしまうことに対する思いを私は何十時間も話を聞かせてもらい、一生懸命傾聴して受け止める努力はしてきたつもりである。
- ・例えば、忍地区から学校がなくなってしまうたら忍地区の方は誰でも嫌だと思う。その思いは、どの地区の人も抱くと思う。しかし、そうになってしまうと最終的に何も達成できなくなってしまうと感じた。
- ・この未来像だが、見方をいくつか考えた。地震などの災害が起きた場合の視点で、スクールバスが走れない状況で子どもたちを保護者にどのように引き渡したらよいかとイメージした。そう考えると、学校からそれぞれの地域の距離がどれほど離れているかというのは大きい。学校をどこの位置に置くのかは、そういった観点で考えなければならない。
- ・後は、地域とのつながりも重要である。学校ごとにPTAもしくは子ども会の活動があるが、学校を会場にして行事を実施したいといった要望がある。そういう地域同士の結びつきも考えて区割りを考える必要がある。
- ・3つ目が、通学距離である。小学生は可能な限りスクールバスを利用することができるだろうが、中学生は自転車通学ということ想定すると、このパターン2は南河原中学校区を見ると旧妻沼町との境界付近に住んでいる子や太田中学校区では羽生市との境界付近に住んでいる子が自転車で通学できる学校はどこかという切り口で皆さんと議論するのもいいのではないかと考えた。
- ・キーワードは安心感。子どもたち、保護者、地域の皆様が安心感を持てるような区割りを考えていく必要がある。

櫻井委員

- ・パターン1とパターン2で比べたときに、できるだけ同じくらいの規模の学級数になるのが良いのではないかと思う。飯塚委員が述べられたように、教育の質を高めるためには教員が持つ校務分掌の負担軽減や若手教員の育成を行っていく必要がある。そうした状況を踏まえると、ある程度学校規模が同じ方が取り組みやすくなると思う。
- ・市全体を考えると、特定の区域で小さい規模の学校ができてしまわないような区割りを考えていく必要がある。
- ・多田委員からの発言があったように、通学区域を考えたときに新校の位置は決まっていないが、パターン2は「中学生は6キロメートル以内」という国が定めた通学距離を超えてしまう地域が出てしまう可能性があるのではないかという印象がある。
- ・そのため、パターン1が望ましいのではないかと思う。また、事務局から各ブロックで通学区域を定めつつ、地域の事情に応じて変更もあり得るとの説明もあった。例えば、太田地区を見ると、

<p>袴田委員</p>	<p>割と長野地区に近い位置に子どもたちが多く住んでいる。仮にその地域の方々からAブロックの通学区域の学校に通いたいという意見が出たとき、変更もあり得るということであればパターン1が良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にこの資料を見せると、最初に「いつから再編が始まるのか」、「学校の位置はどこなのか」、「スクールバスが必要である」という心配の声が一番多く、関心が高いと感じている。また、それぞれのブロックの通学区域で入り組んでいる地域は、計画で示されている通学区域ではないブロックの通学区域の方が、学校が近いという意見は必ずあると思う。そうした場合に通学する学校を自由に選べた方が良いと思う。
<p>木村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン1、パターン2で比べると、学級数のことを考えればパターン1の方が良いと思う。 ・質問だが、この通学区域について、どの時点で地域の方や学校運営協議会の方に説明するのか。決定していない段階でも説明するのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この審議会で皆様にしている説明と同じ説明をしたいと考えている。つまり、事務局案としていくつかパターンを出し、特に児童生徒数や学級数という点を考えたときに、パターン1が良いのではないかと事務局としては考えた旨を伝える。そして、通学区域等審議会でも議論をしてもらっているという説明をする予定である。
<p>木村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を見ると、太田地区をAブロックかBブロックに入れるかということが論点になっている。太田中学校区域内の方から色々な意見が出るのではないかなと思うが、それも踏まえて説明するという事でよろしいか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
<p>羽賀委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の方で、様々な点を考慮した上でパターン1にしたのであれば異論はない。私たちが考えていること以上に精査した上で、教育委員会としての案を示しているので、特に意見を言うつもりはない。 ・私は自治会長も務めたこともあるのだが、資料1の14ページの図8のように、実際に同じ自治会内で通学区域が異なる現象が起こっているため、地区運動会の際、自治会で用意しているテントに一方の学校に通っている子どもが入っていて、もう一方の学校

<p>寺崎委員</p>	<p>に通っている子どもは気を使って入れないという地区がある。市長も子どものことを中心とした施策を行うということであれば、こういった課題も解消した上で通学区域を定めていただき、今後の個別計画を示す際は、その辺のことも踏まえて説明をしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私からは2点ある。1点目がパターン2の方が後期の学級がAブロック、Bブロックともに12学級でそろってくるので、パターン2の方が良いのではないかと伝えたが、説明があったように学校全体を1人の校長先生がマネジメントするということを考えると、前期課程、後期課程の合計の学級数がそろっている方が効率的であり、良い教育につながる可能性があるという認識できたので、事務局が示す案に納得した。 ・2点目が羽賀委員の発言があったように、自治会長をやっていたからこそ分かる視点もあるということが理解できた。あらゆる立場の方からの視点で意見を出し合えば、さらにより緻密な計画になると感じた。
<p>柿沼(清)委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン1、2、3とあるが、今までの地域性を考慮した場合、パターン1が適当だと思う。見沼中は、以前は北河原、荒木、須加地区の住民が通っていた。地域に対する安心感という意味では、パターン1が一番良いのではないかと思う。 ・先ほどの議題に戻って申し訳ないが、30ページに個別計画の案は別に示すということだが、骨子編を皆さんに展開する段階で「うちの学校、地域はどうなるのだろう」といった悩みや不安が大きくなってしまうと考える。一旦、この骨子に対して、住民や保護者に聞いてみると思うが、自分の子ども、さらには孫を新しい学校で安心感を持って育ててほしいというのが一番の願いだと思う。その部分を配慮しないと、保護者は不安だけが残ると思うがいかがか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再編について、詳細なところまで示さないと保護者の見通しが立たないので不安になるという趣旨の発言であり、理解できる。しかし、その前段でどこまで決めるかといったときに、事務局としては、まずは3つの通学区域を定めておきたいという思いからこの計画の骨子編の作成を進めている。
<p>柿沼(清)委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Aブロック、Bブロック、Cブロックが決まった時点で、学校の位置について保護者、地域に示すことになると思うが、この期間が恐らく半年間ぐらいあると思う。そうすると、この半年間で

	<p>保護者はとても不安になる。その不安な部分について、校長先生等が伝えていただけるとスムーズに行くのではないかと思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> まず、この骨子案が固まった後、それぞれの学校の個別計画を今後作成していくので、その時点で事務局として学校の位置や既存か新設か等の案は当然しっかりと示し、地域の方々と議論していく。
柿沼(清)委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域の発想を伺うのは結構なことだが、現在の学校の仕組みを考えると今後デジタル化が進み、教室の大きさなどは今までの大きさよりも小さくすることで小回りが利き、勉強の能力が上がるといった部分があると思う。その辺をきちんと考えていかないと、世の中の動きに対して遅れてしまうことを意識して検討していただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 学校のハードの部分だけではなく、こういった教育をしていくかといったこともきっちりと示していく。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> 今までの協議内容を整理すると、令和6年度からこの骨子編を基に各学校の学校運営協議会等に説明するということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> まずは、この骨子編を作っているという現状と内容について理解いただくための説明を行っていく必要があると考えている。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> 要するに、この資料を示して説明するということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> そのとおりである。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> そこで意見が出た場合はどうするのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 出てきた意見の中で合理的なものや改善すべき点が指摘されれば適宜修正するが、基本的にはこの計画で進めていくという説明に努めていきたいと考えている。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> そのときに、学校の位置や使用する学校についての質問が出たときは、これまでの説明と同様に個別に考えていくという説明をするのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 名称は個別計画としているが、3つのブロックで同時並行的に議論を進めていこうと考えている。3つの義務教育学校を将来的に設置したいと考えているわけだが、3つの学校ごとに教育の

	<p>質等に関して極端な差が出ないように議論を進めていくということの説明していく。</p>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> この骨子編を学校運営協議会や自治会などに説明したときに、質問や意見がかなり出ると思う。そのときに、事務局は後のことはこれから考えていくという説明をしていくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 計画の土台となる部分はこの骨子編であることを説明していく。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> いつからこの計画を実行に移すのかと聞かれたときにどうするのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 30ページに示しているが、令和6年度中に個別計画の案を作成し、令和7年度中に保護者や地域の皆様から了承いただいた上で個別計画が策定となり、新しい学校の開校に向けて令和7年度中に準備を始めていくというロードマップを示している。 色々心配されるところがあると思うが、今年度から来年度の半ばぐらいにかけては、骨子編として新たな学校の大まかな通学区域と義務教育学校を作っていくところをまず市民の皆さんに理解していただく。これをきっちり固めた上で、その後3つのブロックにおける学校の位置や学校形態等について皆さんの意見を伺いながら個別計画にまとめていきたいと考えている。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> この個別計画の作成は、令和6年4月からスタートさせるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 現在、骨子編については素案としていて委員の皆さんの意見を聞いた上で今年度中に案にしていく。その案について令和6年度の4月から早い段階で説明した上でパブリックコメント等を行い、この骨子編を策定したいと考えている。その後、令和6年度の後半に個別計画を事務局で作成した上で、令和7年度中の策定を目指すというようなことを30ページのロードマップに示している。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールは分かるが、この骨子編について審議会だけでも様々な意見が出ているので、それを受け止められるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様からの意見を踏まえて、事務局で様々なことを調べる必要がある。また、想定される質問に対して真摯に答えていく。

島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な質問が出たときに、今までの説明と同様の答えをするつもりなのか。
羽賀委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の議題は、新しい学校の将来像についてであり、今議論している内容はこの議題に即していないと思うが議長いかがか。
柿沼会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この審議会は、どこまでを審議すればよいのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この骨子編の内容について審議していただきたいと考えている。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あと1回やるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あと1回というのは、どんなことを議論するのか。
柿沼会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局で議事録を作成し、各委員から出た意見を精査した上で骨子編を見直すものと考えている。その見直した素案について、再度、各委員に示した上で意見をいただく予定である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域を考えたときに、自分の家から近い学校に通わせたいと思う家庭は多いと思う。通学区域について柔軟に対応していただけるのであれば、パターン1が良いのではないかと思う。 ・1つの自治会で複数の学校に通学する子どもたちがいるということだが、同じ学校に行けるように少しずつ通学区域を見直すことができれば、地域と学校とより円滑で適切な連携ができるのではないかと思う。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン1、2、3とあるが、それぞれのパターンについてブロック分けをするに当たっての基準があれば教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・一番意識したのは、それぞれの中学校区の小中学校を組み合わせたときの児童生徒数や学級数である。学級数が決まれば、当然、各校に配置される教員の人数も決まってくるので、一定数の児童生徒数が必要だという視点と、もう一つは理解を得るために今の中学校区をベースとして考えた。

小林委員	<ul style="list-style-type: none"> 多田委員からの発言があったが、避難所等様々な課題が出てくると思う。あくまでこのエリアを決めた上で、それぞれのエリアで対応していくという考えで良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> そのとおりである。
柿沼会長	<ul style="list-style-type: none"> 各委員と熱心な議論ができ、実りある会議となったと思う。皆様からの意見を踏まえて、事務局で検討いただき修正箇所等について次回の審議会で報告いただいた上で審議していきたいと思うがいかがか。
各委員	<ul style="list-style-type: none"> 異議なし。
柿沼会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、本日の議事は以上となる。これをもって、進行は事務局にお返しする。
司 会	<ul style="list-style-type: none"> 長時間にわたり熱心に協議いただき感謝する。最後に今後の予定について事務局より連絡する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 次回の会議は、2月9日から15日までの4日間で調整させていただく。手元にある会議開催日程調整表に、現時点で都合の良い日に可能な限りチェックを入れていただきたい。後日日程調整を行った上で、開催日時および会場について案内させていただく。 なお、現時点での予定であるが、次回の会議を最終回とし、委員の皆様から了承を得た場合には、2月下旬に柿沼会長から教育長へ答申していただくことを考えている。 会議資料については、事前にメールまたは郵送で送らせていただく。
司 会	<ul style="list-style-type: none"> 以上で、令和5年度第2回行田市公立学校通学区域等審議会を閉会とする。 <p>4 閉会</p>